

【様式1】平成28年度 県中校長会 Web ページ版教育便覧

市町名	世羅町	学校名	世羅町立甲山中学校
校長名	藤井 みゆき	電話番号	0847-22-0037
分野・領域	<input type="checkbox"/> 人材育成 <input checked="" type="checkbox"/> 学力・学習意欲 <input type="checkbox"/> 生徒指導 <input type="checkbox"/> キャリア教育 <input type="checkbox"/> 学校・家庭・地域の連携・協力 <input type="checkbox"/> 学校経営 <input type="checkbox"/> 服務研修 <input checked="" type="checkbox"/> 教育研究 <input type="checkbox"/> 進路指導 <input type="checkbox"/> 食育 <input type="checkbox"/> 教育課程 <input type="checkbox"/> 体力づくり <input type="checkbox"/> 情報教育 <input type="checkbox"/> 伝統文化 <input type="checkbox"/> 情報発信 <input type="checkbox"/> 危機管理 <input type="checkbox"/> その他 ()		
研究主題	生徒の能力を引き出し、自信を育む教育活動の創造 -アクションリサーチによる授業改善,「わかる」「かかわり合う」 授業づくりを通して-		
当該ページのアドレス	kouzan-jhs@edu.town.sera.hiroshima.jp		
研究内容	<p>学力調査に基づいたきめ細かな実態把握を生かし、アクションリサーチによる授業改善を短いサイクルで行い、「わかる」「かかわり合う」授業づくりを充実させれば、生徒の能力を引き出し、自信を育むことができるかと仮設し、実践していく。</p> <p>(1) 家庭学習の習慣化と基礎学力の定着</p> <p>①学力調査を活用したアクションリサーチによる短いサイクルでの授業改善を行う。</p> <p>②ドリル学習(反復学習)を行うとともに、授業で家庭学習の仕方を指導し、全学年で「自主学習ノート」に継続的に取り組む。</p> <p>(2) 生徒の主体的・協働的学びの質や深まりを重視する学習指導の充実</p> <p>①各教科の授業において「かかわり合う場」の充実を図る。</p> <p>②授業改善に関する研修を定期的で開催し、教員の授業力の向上を図る。研究授業前のシミュレーション授業でねらいに迫るための指導の手立て等を検討し、事後の協議会でその有効性を検証する。</p> <p>③定期的に教員同士が互いの授業を参観し合う機会を設定し、授業力の向上を図る。</p>		
備考			

【様式1】平成28年度 県中校長会 Web ページ版教育便覧

市町名	世羅町	学校名	世羅西中学校
校長名	信廣正夫	電話番号	0847-37-1122
分野・領域	<input type="checkbox"/> 人材育成 <input checked="" type="checkbox"/> 学力・学習意欲 <input type="checkbox"/> 生徒指導 <input type="checkbox"/> キャリア教育 <input type="checkbox"/> 学校・家庭・地域の連携・協力 <input type="checkbox"/> 学校経営 <input type="checkbox"/> 服務研修 <input checked="" type="checkbox"/> 教育研究 <input type="checkbox"/> 進路指導 <input type="checkbox"/> 食育 <input type="checkbox"/> 教育課程 <input type="checkbox"/> 体力づくり <input type="checkbox"/> 情報教育 <input type="checkbox"/> 伝統文化 <input type="checkbox"/> 情報発信 <input type="checkbox"/> 危機管理 <input type="checkbox"/> その他（ ）		
研究主題	学び合いを引き起こすアクティブ・ラーニング型授業の創造 ～協調学習による建設的相互作用を通して～		
当該ページのアドレス	www.edu.town.sera.hiroshima.jp/seranishi-jhs/		
研究内容	<p>1 課題発見・解決学習の学習過程の中に協調学習を</p> <p>今年度、本校は「学びの革新」パイロット校事業実践指定校を受けており、「協調学習」を位置付けた課題発見・解決学習の単元づくりを行っていきたいと考えている。</p> <p>「協調学習」は、共有された課題について、自分の考えを相手に説明したり、相手の考えを聞いたりしながら、自分の考えを比較・吟味・修正して、より質の高いものにしていくことをねらいとする学習である。</p> <p>取組においては、アクティブ・ラーニングの1手法である「知識構成型ジグソー法」を用いる。これは、「協調学習」を教室で引き起こすために、「東京大学 大学発教育支援コンソーシアム推進機構 (CoREF)」が提案している「3つの異なる考えを組み合わせる課題に答えを出す学習法」である。</p> <p>課題発見・解決学習の6つの学習過程の中で、ポイントとなる授業において「協調学習」を展開し、より深い課題発見・解決学習につないでいきたい。</p> <p>2 協調学習による建設的相互作用について</p> <p>研究主題のサブテーマにある「建設的相互作用」とは、他者とのかかわり合いの中で、課題解決のヒントや新たな方法に気づいたりするなど、課題に対して多角的に分析・思考することができるようになり、様々な課題に対して適用範囲が広がっていくことである。</p> <p>これまでのグループ活動では、一方通行の交流にとどまっていたり、教える生徒と教えられる生徒の関係が固定化していたりするなどの課題があったが、「建設的相互作用」をめざした「知識構成型ジグソー法」による授業では、生徒が考えを深く交流し、自分なりの納得解を創り出すので「主体的な学び」になりやすいと考えられる。</p> <p>このように、「知識構成型ジグソー法」を用いることにより「建設的相互作用」を起こし、学び合いの中で自らの考え方を広げ深める、「主体的な学び」を創造していきたい。</p>		
備考			

